

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No51～

平成 29 年

12 月号

一般社団法人日本書字文化協会機関紙
編集長 渡邊啓子

一般社団法人日本書字文化協会
代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 中野区中野 2-11-6 丸由ビル 301
電話 03 - 6304 - 8212 FAX03 - 6304 - 8213
E メール info@syobunkyo.org



目次

第 6 回伝統文化大会募集中 特集	2
コラム「こころ」大平恵理	7
冬季特訓・オリセン書き初め特訓	8
第 6 回総合大会優秀作品展示・交流会	9

第6回伝統文化大会募集中



★平成29年度全国年賀はがきコンクール★

★平成29年度学生書き初め展覧会★

応募締め切り 平成30年1月19日（金）書文協事務局必着

主催 一般社団法人日本書字文化協会（書文協）

共催 公益財団法人文字・活字文化推進機構

後援 文部科学省、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全日本書写書道教育研究会

応募作品送付・連絡先（12月1日以降）

〒164-0001 東京都中野区中野2-11-6 丸由ビル301

電話 03-6304-8212 ファックス03-6304-8213

書文協本部（大会事務局）は平成29年12月から、上記に移転します。

実施要項・課題一覧・手本などは書文協ホームページにあります

個別大会名	部門	団体出品・出品料		個人出品料
年賀はがき コンクール	硬筆 指定課題の部	幼・小・中	428 円	1,296 円 (学年に関わらず)
		高・大・一般	732 円	
学生書き初め 展覧会	毛筆 指定課題の部 自由課題の部	幼・小・中	540 円	
		高・大	907 円	

※団体が応募する場合、出品料の支払い合計が3,000 円に満たない場合は、1000 円をプラスしてください。例えば、年賀はがき中学以下5点2,140 円、学生書き初め展の中学以下1点540 円、合計2,680 円の場合、総額は+1000 円で3,680 円となります。手数料、送料の一部とするものです。

個人応募の方も＜参加予定申込書＞にて、出品手続き用書類、参考手本、年賀はがきコンクール清書用紙をご請求ください。

振込先

名義 一般社団法人日本書字文化協会 記号 00130-1 番号72811

指定課題

指定課題共通テーマ「今年の抱負」。

書文協では、両コンクールともに、新年の改まった気持ちを書いていただく機会として、共通テーマを「新年の抱負」としました。決意、目標は自分にとって前向きで、世の中のためにもなることが大事です。とくに中学生以上では「おおよけ（公）」の為になることを意識した課題文を多くしました。

◎年賀はがきコンクールは硬筆指定課題のみ

◎書き初めは毛筆のみ、自由課題も OK です

表記上の注意点

①筆記具

年賀はがきは、えんぴつかペンで書くことができます。書文協では、えんぴつ以外ではプラスチックペンを推称しています。

②氏名

ひらがな・漢字表記を原則としますが、応募者に事情がある場合は、カタカナ、アルファベットも使えます。教室生は教室指導者を通して書文協本部に問い合わせてください。就学前幼児は、名（ファーストネーム）だけでも可です。

③原文表記との違い

原文が漢字でも指定課題はひらがな表記の場合があります。学習指導要領では古文に親しむことが奨励されており、歴史的仮名遣いは一部で残しました。散文では句読点を伏しました。

④書き初め自由課題の原則

(イ) 各教科書会社が出版している書写教科書に掲載されている書き初め手本の文言は、共通テーマ「今年の抱負」になじむものと見なしますので、それらを自由課題の文言として使って結構です。

(ロ) 用紙は縦書き、縦使用とします。文字によって表現することとし、審査は、止め、はね、払いや点画、配置の良さなどを考慮して行われます。自由課題の部も学年配当漢字など学習指導要領に準拠します。

(ハ) 自由課題の部は、指定課題を異なる用紙で書いたものを含め計 5 点まで出品できます。そのうち最も優秀な 1 点に賞が授与されます。小学生漢字は学習指導要領が定める学年配当漢字を原則とします。総合大会では学年前を基準としましたが、伝統文化大会は学年末に近い大会であることから、該当学年配当の漢字を使用することができます。

賞（各コンクール共通）

- ＜特別賞＞ 文部科学大臣賞、大賞、中央審査委員会賞、日本書字文化協会会長賞、文字・活字文化推進機構理事長賞、小・中・高校長会会長賞、全日本書写書道研究会会長賞、中央審査委員長奨励賞、日本書字文化協会賞、文字・活字文化推進機構賞、全日本書写書道教育研究会賞、教育特別奨励賞
- ＜本賞＞ 優秀特選、特選、金賞、銀賞、銅賞
- ＜総合賞＞ 伝統文化大賞 そのグランプリは文部科学大臣賞

全ての参加者に賞状が出ます。出品者の氏名は事務局でコンピュータ印字することが可能です。希望の団体は応募時に1人30円分の印字代を添えてお申し込みください。氏名は出品券と同一になるため、個人別事前参加登録用紙を正確に記入してください。書体はご希望に添えない場合もありますが、あらかじめご承知おきください。

表装、記念アルバム受付

書文協では書作品を飾り多くの人に見てもらう作品化を奨励しています。このため毛筆作品は表装、硬筆作品はアルバム作成を受注しています。応募作品は原則として書文協に帰属しますが、作品化希望者は例外とするものです。表装には紙表装と本表装があります。記念アルバムは作品のほか賞状のレプリカ、本人の写真が貼られます。複数のアルバムを希望の場合は、2つ目からは複写作品となります。アルバムにはアルバム立てが付きますので教場の作品展にも最適です。価格、応募締め切り日は、結果発表の際にお知らせします。表装、アルバムは学びの足跡を残す記念ともなります。皆さんご応募ください。

ダウンロードできる文書

申し込み用紙はホームページからダウンロードできます。ホームページ最初のページの写真の下にある横長タスクバーの左から2番目「大会」にカーソルを当てると、関連項目がスクロールされます。その中の伝統文化大会をクリックしますと実施要綱が開きます。その最後に「ダウンロードはこちら」の項目があり、以下の文書がダウンロードできます。

◇参加予定申込書_園・学校用◇参加予定申込書_塾・個人用◇応募総括用紙◇
応募統括用紙_個人用◇応募明細用紙◇個人別事前参加登録用紙◇毛筆出品票

初めて参加される方の事前参加登録制と出品券の発行

初めて参加される方は個人別事前参加登録用紙をご提出ください。出品券が発行されます。これを毛筆作品は出品票、年賀はがき作品は年賀はがき清書用紙（書文協製）の所定欄に貼って出品してください。出品目録は不要です。出品券のお名前の字体が賞状名前印字の基となります。既参加は出品券をご請求ください。

参考手本、年賀はがき清書用紙の発売

参考手本は書き初め（毛筆、A3に縮小）は1枚100円、年賀はがきコンクール（硬筆実寸大）は1枚30円で販売します。上記参加予定申込書にてご請求下さい。手本は評価の観点とともにホームページで公開されます。園・学校応募には無料特典があります。

参加予定申込書にてご請求下さい。手本は評価の観点とともにホームページで公開されます。園・学校応募には無料特典があります。

大会事務局

大会運営委員長 渡邊 啓子 一般社団法人日本書字文化協会副会長・事務局長
日本書字文化協会本部（12月1日から移転しました）

〒164-0001 東京都中野区中野 2-11-6 丸由ビル 301

電話 03-6304-8212（10:00-17:00月～金） FAX 03-6304-8213

E-mail info@syobunkyo.org ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

（電話、ファクス、ITアドレスは変わりません）

アクセス JR、東西線中野駅南口からゼロホール方向へ徒歩3分。旧本部の約100メートル手前です。

大平 恵理（書文協会長）

少人数制の良さ



この度、書文協の本部を移転しました。これまでの本部から同じ道沿いを西へ約100メートルの近さです。最寄りのJR中野駅南口からは徒歩約3分で、より駅近くなります。南口では再開発が進もうとしており、将来的にその動きの中に入るのが移転の大きな目的です。それ以上に私としてはこの際、生徒一人々により気を配り、手を添えた指導をしていきたいという願いを実現する機会として気が動きました。

本部の事務所スペースを区切ると、教室スペースは現在の1/3ほどになります。長机が6台。2人がけとして12人が座ればいっぱいです。毛筆の場合は一人が1台を占有するとして定員は6人です。床書きなら、ゆったりやろうとすれば4人でしょうか。20人近くが紙を広げ、足の踏み場もないことがあったこれまでと大変な変わりようです。

書塾も施設産業ですから、施設の有効利用は大切です。しかし、一人の先生が教えられる人数には限りがあります。そこがワンウェイの大教室講義と“手習い”の違いです。私としては、書写書道の場合、一人の先生の手の届く範囲は10人が理想と考えています。その人の心理が大きく影響する書の学び。そこまで気配りして、しかも手を取って教えるとなるとその人数でしょうか。そのかわり、現在の1コマ90分を60分に短縮して、より密度濃い授業にします。準備、片づけもより真剣にやっていただくことになるでしょう。

書文協は、指導法・テキスト・書具の研究開発が本業で、書写書道専修学院を付属の教育研究機関として置いています。いわば書塾を本業としないからそんなことがいえるのかもしれませんが。土地柄、先生のお考えによっていろいろな形があると思います。それを認めた上で私は、書塾が学校教育の補完として、さらに大事な生涯教育の場として真に認められていくには、マスプロダクションと対極の少人数制の学びとして指導法的にも、経営的にも確立されることを考えていきたいと思います。

近くの中野ゼロホールを借りた大規模講習なども併用しますが、少人数制に踏み出しました。ほぼ全員の生徒に新しいコマ割りに賛同していただき、チャレンジはスタートを切りました。

冬季特訓のお知らせ

青梅 12/23～、中野 12/25～1/7 まで

空気がピリリと引き締まった冬は書写書道のシーズンです。書文協書写書道専修学院は冬休み期間中に冬季特訓を開催します。皆さん、どんどん参加しましょう。

同専修学院の教室がある中野と青梅で開催するもので、青梅は12月23日から、中野は同25日からスタートします。終了は1月7日（日）です。中野の会場は主にゼロホールです。開催日、場所など詳しくは書文協本部にお問い合わせください。

書き初め席書特訓（1/4、オリセン）も

1月4日（木）は代々木のオリンピック記念青少年総合センターで書き初めの特訓を行います。硬筆に取り組む人もいますが、毛筆の半切に挑む人たちが集う講習会でもあります。この人たちの多くは翌日、日本武道館で開催される第54回全日本書き初め大覧会席書の部に参加するもので、書文協からは大平恵理・渡邊啓子正副会長、池田圭子教学参与がそろい踏みで指導に当たります。

書文協中央審査委員会の加藤東陽委員長が審査リーダーを務める武道館書道大会への参加は書文協として奨励しています。同書き初め大覧会席書の部予選作提出は11月10日閉め切られましたが、公募の部は来年1月11日必着で受け付けています。公募の部の指定課題はありません。詳細は武道館ホームページで確認してください。



第6回総合大会 優秀作品展示交流会 i n 浅草

～「学業と書写書道の両立」を掲げて～

昨年に続く展示交流会は11月5日、東京・浅草公会堂で開催されました。1階の展示ホールで後援団体賞以上の特別賞入賞作品を展示、3階の集会室で「学業と書写書道の両立」をテーマに対話集会を開いたもので、地元の秀雪書道教室作品展が併設されたこともあって、多数の人が訪れました。

対話集会には児童生徒、保護者ら計80人近くが参加。加藤東陽、辻眞智子・書文協中央審査委員会正副委員長をはじめ、ゲストとして寺本麗鳳（大阪・麗鳳書院主宰）、桑島秀雪（東京・秀雪書道教室主宰）、須田智子（横浜・森村学園中高等部書道担当、夕佳会主宰）先生も参加、自分の体験を交えて生徒らに話しかけました。

来年は大阪での開催を検討しています。

（写真は、対話集会後に撮影された記念写真、展示会場風景）

